

【西条市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境の整備によって実現を目指す学びの姿

ICT環境の整備によって実現を目指す学びの姿については、学習指導要領及び中央教育審議会答申において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」として「令和の日本型学校教育」の形で示されています。また、西条市では教育基本方針の推進目標として、「学びあい学習」とICTの効果的な活用によって「学び合う学級文化」の創造を掲げ、教育の質の向上に努めることとしています。

これを受け、教育環境の整備・充実に図り、学校の充実したICT環境を活用しながら、わかる・できる・楽しい授業を創造し、同時に校務の効率化も図りつつ、質の高い教育を行うことを目指します。

2. GIGA第1期の総括

本市では、早期から教育ICT環境の充実に取り組んできました。

平成27年度から積極的にICT環境の整備を進め、平成27年度に小学校、平成28年度に中学校の各教室に電子黒板と指導者用デジタル教科書を整備しました。同時期に統合型校務支援システムについても、導入、運用を開始しました。

また、GIGAスクールの第1期については、令和2年度内に1人1台のタブレット端末と無線LAN環境の整備を完了しました。同時に、教職員用として、同型のタブレット端末を配付しました。

更に、令和5年度から、ICT教育指導員、ICT支援員による授業支援や研修を開始し、教職員や児童生徒の学習活動をサポートしてきました。

この様に、本市ではICT環境の整備を進めてきたものの、学校間や教師間での習熟度の差や、特定教員への負担偏重が課題として挙げられています。これらの課題は全教職員による1人1台端末の十分な活用を妨げる要因となっています。これらの課題は、学校へのヒアリングにおいても多く指摘されている点です。また、協働学習にタブレット端末を活用する点において、まだまだ取り組まれてない実情があります。これらを含め、全ての教職員の情報活用指導力の底上げは今後の課題の1つと捉えています。

また、1人1台タブレット端末の持ち帰りについては、全校で積極的に取り組まれているとは言い難い状況です。各家庭へのWi-Fi環境整備については、低所得世帯向けにオンライン通信費助成として、準要保護家庭や特別支援学級へ通う児童生

徒を持つ家庭への扶助費の通信費の助成を継続し、家庭での Wi-Fi 環境整備について保護者の理解を得るための呼びかけを続けます。

次期 GIGA スクールでは、これらの課題を、各種の研修や、ICT 教育指導員や ICT 支援員による授業サポート等を踏まえつつ、教職員の意識改革を行うとともに、1 つ 1 つ解消してゆくことを目標とします。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

ICT の活用を苦手とする教員への研修を充実させます。ICT 教育指導員、ICT 支援員、外部講師による研修を実施し、教職員の情報活用指導力の向上を継続的に行うことで、1 人 1 台環境の積極的な利活用を促進します。また、GIGA スクール第 2 期に向けた 1 人 1 台タブレット端末やネットワーク機器、電子黒板等の堅実な更新を実施し、安全・安心で快適な学習環境の整備・充実に努めます。1 人 1 台タブレット端末の平常時、長期休業中の持ち帰りについては、令和 7 年度末までに全校で実施率の大幅な向上を目指します。

1 個別最適な学び

AI 型ドリル教材やデジタル教科書を活用し、児童生徒一人ひとりの学びのペースや理解度に合わせた授業を目指します。AI 型ドリル教材等に搭載されている見える化の機能も利用し、児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で積極的に活用することも検討します。

2 協働的な学び

本市では、前出のとおり、ICT 教育指導員、ICT 支援員、外部講師による教職員の情報活用指導力の向上を継続実施し、教員の意識改革を進めます。既に導入済の協働学習支援ソフトウェアを活用し、特定の学校では児童生徒が主体的・対話的で深い学びを実現していると考えられます。このような成功事例を他校へ横展開し、ICT を活用した協働的な学びを推進します。

3 誰一人取り残さない教育

不登校等により学校の授業を受けられない児童生徒に対し、適応指導教室における Wi-Fi 設置等、ICT を利用した学習環境の充実や、愛媛県が進める校内サポートルームやメタサポキャンパス等の活動を広めることで、特別な支援が必要な児童生徒や、登校が難しい状況にある児童生徒へのオンライン教育や学びの機会を保障します。